



## わたしたちも 精一杯生きよう

大和郡山市長

上田 清

市長からの  
メッセージ

新成人のみなさま、おめでとうございます！

さて本格的な寒さはこれからですが、やがて郡山城跡を彩る桜が開花の準備を始めるのが、一定期間続くこの寒さで、これを「休眠打破」といいます。

厳しい寒さがあればこそ 春を迎えて咲く桜

桜といえば、思い出すのが松原泰道さんのことです。

松原さんは臨濟宗のお坊さんで、明治40(1907)年のお生まれですが、大学を出た昭和の初めは大変な不況で就職が決まらない5人の仲間と、野宿をしながら箱根に旅をした時に出会った歌碑が、その後の人生を決定づけることとなります。詠み人知らずといわれるその和歌は

あれを見よ 深山の桜 咲きにけり  
まごころ 真心尽くせ 人知らずとも

あれをご覧。奥深い山に、人知れず桜が咲いている。

誰かに見られたくて?誰かにほめられたくて?

人間も同じではないか。

人に知られなくても、真心を尽くしなさい。

この言葉を胸に生きて行こうと、仲間とともに誓った松原さんは9年前、何と101歳で亡くなっています。

その松原泰道さんの言葉を紹介しておきましょう。

花が咲いている 精一杯咲いている

わたしたちも 精一杯生きよう。

みなさまのご活躍を心から期待しています。



新成人からの  
メッセージ

## 20歳を迎えて 柁井 美桜 郡山南中学校出身

今年成人を迎え、私たちは世間の人たちから「大人」と呼ばれる立場になりました。大人の仲間入りをした私たちの中には、すでに職業に従事している人や、学業に励んでいる人など立場は様々です。これから私は、自分の行動に責任を持ち、社会の一員として常に向上心を持って前進する覚悟でいます。

さて、今まで過ごしてきた20年間を考えると本当に家族や友人、地域の方々に支えられてきたと感じています。特に家族には、たくさん支えてもらい、私のやりたいこと、好きなことを最後まで応援してくれました。そのおかげもあり、私は将来、養護教諭という職に就きたいと思うようになりました。今はまだまだ勉強中ですが、同じ志を持った仲間たちと競い合い、励まし合いながら、思いやりの心を忘れず、色々な人から信頼されて子どもたちと良い関係を築くことのできる養護教諭になれるように頑張っていきたいと思います。

これからは、もっと家族や友達との時間を大切に、感謝の気持ちをしっかり伝え、たくさんの良い思い出を作っていきたいです。大人としてスタートした今、自覚を持って少しずつ前に進んでいこうと思います。



新成人からの  
メッセージ

## 成人と責任 渡邊 泰斗 片桐中学校出身

私達は二十歳と言う節目を迎え、同時に社会に対する責任を負わなければならないとなりました。それにより、自分の言葉や行動にはいつでも気をつけていかなければなりません。今までは何か問題を起こしてしまったとしても、親の力を借りたり、周りの人々が助けてくれたりしていましたが、これからはそういう訳にはいきません。

私は高校を卒業したあとすぐに車の免許を取得し、車でドライブすることの楽しさを知った私は、車を趣味にすることができました。その時の感動は今でも忘れられません。今では毎日のように車で職場まで通勤しています。そして二十歳を迎えると車だけではなくお酒も飲めるようになり、友人とお酒を飲みに行く機会も増えて、さらに楽しみが増えるでしょう。

しかし、もし事故や問題を起こしてしまったら、家族や会社、その他の多くの人に迷惑をかけてしまい、何よりもこれからは自分で多くの責任を負わなければならないとなります。何気ない生活の中の一つの行動が、今後の自分の人生を大きく揺らすこともあるのです。

二十歳を迎えた私達は、これからの毎日をただ呆然と暮らすのではなく、一人一人自立し、何をするにも責任をもって、様々なことを考えながら生活していかなければなりません。そのことを心にとめながら、これからの人生を歩んでいきたいと思っています。

〈平成30年 新成人の集い「成人式」新成人スタッフ〉



メッセージ

## 思いやりの 視点を広げる

第5回水木十五堂賞受賞者  
女性の日記から学会代表

島 栄子

新成人の皆様おめでとうございます。

53年前、田舎での我が成人式を思い出します。女性のほとんどが艶やかな振袖姿でしたが、私は地味なスーツを着ていました。入り口で後ずさりしそうな気持ちを振り払い、一方に他の誰とも違う自分を誇らしく思う気持ちもありました。この二つの感情は、それからの人生、例えば就職、結婚、子育て、子どもの結婚、また毎日の暮らしの中で私の中でいつもせめぎ合ってきました。「世間の常識」通りに生きていくのは楽なので、つい流されてしまいます。しかし人と違う自分に気付き、その個性を大事に思うことは他者を思いやる糸口にもなります。自分、次に周りにいる人、そして会ったこともない人へと思いやりの視点を広げ、自分と遠い人と泣いたり、共感できる心こそ、人間の知恵です。人権の基本です。

いま私は「庶民の日記をはじめとする個人の資料を社会の遺産にする活動」に取り組んでいます。記録を読みながら実際には会うはずもない大勢の人に会い、強くなり、優しくもなれました。

時にはおじいちゃんおばあちゃんの話聞いてください。またいろいろの本を読んでください。遠い時代の人や地球の反対側に住む人とも簡単に会えることが出来ます。目に見えない、一番大事なものを探していってくださいね。

島利栄子氏は、従来注目されることが少なかった庶民、特に女性の日記を蒐集し、その時代を生きた人々の想いを表現するとともに庶民の暮らしを実証する貴重な資料として保存、活用し、次代に伝えることに貢献されております。

